

CSR 重要課題の解決に繋がる取組み

地域特性を活かした、九州の持続的な発展

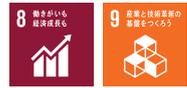
■ SDGsへの対応

CSR重要課題	関連する主なSDGs
地場産業の振興と雇用創出	 
九州地域の交流人口の拡大	 
生物多様性の保全	   
お年寄りや子どもにも優しい社会への貢献	   
安全で強靱なまちづくり	  

■ 主な目標・実績

2018年度目標	2018年度実績	2019年度目標	該当するCSR重要課題
<ul style="list-style-type: none"> 地域の皆さまと協働し、地域・社会の課題解決に貢献する活動を積極的に展開します。 	<p>九州電力による主な活動*</p> <p>参加者数(社内外): 約3.6万名、プログラム数: 270回</p> <p>*きゅうでんプレイフォレスト エコ・マザー活動、こらぼらQでん</p> <p>「九電みらい財団」による活動</p> <p>参加者数(社内外): 約1,900名、プログラム数: 28回</p> <p>次世代育成支援活動の助成団体数: 22団体</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の皆さまと協働し、地域・社会の課題解決に貢献する活動を積極的に展開します。 	生物多様性の保全
<ul style="list-style-type: none"> 社会に重大な影響を及ぼす設備事故件数: 0件 	0件	<ul style="list-style-type: none"> 社会に重大な影響を及ぼす設備事故件数: 0件 	安全で強靱なまちづくり
<ul style="list-style-type: none"> お客さまの電力設備への接触による感電事故を防止するため、設備対策や注意喚起のPR活動を積極的に行います。 	<p>公衆感電事故件数: 1件</p>	<ul style="list-style-type: none"> お客さまの電力設備への接触による感電事故を防止するため、設備対策や注意喚起のPR活動を積極的に行います。 	安全で強靱なまちづくり

地場産業の振興と雇用創出



一次産業をはじめとした地場産業の振興

グループ会社のニシム電子工業(株)では、農業向けITセンサー「MIHARAS」(ミハラス)を提供し、農業の生産性向上を支援。

九電産業(株)が運営するインターネット通販サイト「こだわり九州いいものめぐり」では、九州各地の逸品を紹介し、地域物産の振興を後押ししています。

「[MIHARAS]」サービスイメージ

センサー端末で収集した気温、湿度、水位等の情報をお客さま端末(PC、タブレット、スマートフォン)上に見える化



九州各地の逸品を紹介する「こだわり九州いいものめぐり」

[こだわり九州いいものめぐり](#) [検索](#)

企業誘致に向けた取組み

九州全土を結ぶネットワークを活かし、九州域外からの企業誘致にも積極的に取り組んでいます。

九州への進出を検討する企業に対し、電力供給だけでなく、ICTサービスの提供や、用地・オフィス確保のお手伝いなど、当社グループの経営資源を活用したサポートを行ってまいります。

[九州電力 企業立地](#) [検索](#)

九州への企業立地のご案内

ホームページ

九州地域の交流人口の拡大



さまざまな取組みを通じて、交流人口拡大等による地域活性化に取り組んでいます。

都市開発事業・空港運営事業

〔都市開発事業〕

2018年7月、当社を含むコンソーシアムが福岡市青果市場跡地活用事業の事業者として選定され、2021年度末の施設開業を目指しています。当事業をはじめ、九州各地の大型都市開発事業への参画を通じ、持続的な発展につながるまちづくりに貢献していきます。



福岡空港の将来イメージ

〔空港運営事業〕

当社は、他企業との共同での公募選定を経て、福岡空港(2019年4月民間運営開始)及び熊本空港(2020年4月民間運営開始予定)の運営権を取得しました。

当社は、地域に密着した事業者として、電力事業で培った知見を活用し、「安全・安心」な空港運営に貢献していきます。

観光振興等による地域活性化活動

九州全県での活性化に貢献することを目的に、各支社において、様々な地域活性化活動を検討・実施しています。

2019年3月には、長崎県島原市において、県内外の人に島原の魅力を知ってもらい、交流人口の拡大に寄与するため、自治体や他企業とも協働し地域活性化イベント「よかね長崎よかまちプロジェクトin島原」を開催しました。

イベントでは、島原城下で親子向けクイズラリーや九州交響乐团による演奏会、地元商品の販売会などを行い、多くの親子連れで賑わいました。

また、福岡市東区の箱崎商店街において、インバウンドを始めとした来訪者を増やし、賑わいを創出することを目的に、地域、商店街、専門家、当社社員で構成する「玉手篋プロジェクト」を立ち上げ、商店街活性化の取組みを検討・企画しました。

この結果、2018年度は、商店街に観光客を呼び込む仕掛けとして、地域の若手が、商店街にゲストハウスを開業し、宿泊客に商店街の紹介やフロントスペースでの各種イベントなどを実施しています。

今後は、ゲストハウスの宿泊者増加と商店街活性化との相乗効果を狙った体験ツアー(商店街店舗での飲食ツアーや、老舗店舗案内ツアー等)を企画・実施することとしています。



島原城下での活動



箱崎商店街での活動

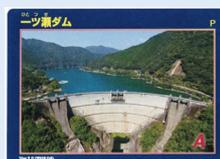
TOPICS

電力インフラを観光資源として活用

当社は、電力インフラ(ダム・発電所など)を活用したインフラツーリズムを推進しています。

2018年度には、宮崎県などにおいて、(株)JTBなどと連携し、当社ダム・発電所を巡る見学・体験ツアーを開催。通常見学できない設備のご案内や点検の模擬体験をおこない、大変好評をいただきました。今後も、九州各地で同様のツアーを開催する予定です。

また、観光施設等と連携してダムカードを発行するなど、電力インフラを観光資源として有効活用し、交流人口拡大に貢献していきます。



ダムカード



宮崎県上椎葉ダム点検通路歩行体験

地域の皆さまと取り組む「こらぼらQでん」

当社では、NPOや地域の方々と協力して地域の課題解決に取り組む「こらぼらQでん」を九州各地で展開しています。

2018年度は、名所旧跡やイベント前のおもてなし清掃活動など九州全域で計25回の活動を行い、約6,500名の方にご参加いただきました。(環境分野の活動については55ページ参照)

今後も、地域が抱える課題の解決に向けて、より多くの地域の方々と一緒に取り組んでいきます。

名称とロゴマーク



「こらぼら」とは、「コラボレーション」と「ボランティア」を掛け合わせた造語です。



「国博通り」清掃活動(福岡県太宰府市)



岡城跡石垣清掃活動(大分県竹田市)



世界遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」清掃活動(熊本県天草市)



飫肥城下清掃活動(宮崎県日南市)

被災地復興支援に向けた取組み

2017年7月に発生した九州北部豪雨や、2016年4月に発生した熊本地震の被災地復興に向けて、継続して支援の取組みを行っています。

● 被災地仮設団地における「健康・料理教室」等の開催

熊本地震で被災した益城町や嘉島町、九州北部豪雨で被災した朝倉市や東峰村の仮設団地において、入居者間の交流を目的の一つとして「健康・料理教室」や「エコバッグ作りワークショップ」等を継続的に開催しています。

「健康・料理教室」では、管理栄養士による講話や当社保健師による健康相談、ホームアドバイザーがIH調理器で調理した料理の提供などを行い、参加者の皆さまから多くの感謝の言葉をいただいています。2018年度は、両地域併せて計11回実施しました。



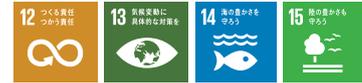
健康・料理教室

● 熊本地震被災地の子どもを対象としたスポーツ教室の開催

熊本地震被災地の子どもたちを勇気づけ、夢と希望と笑顔を取り戻すことを目的に地元企業や熊本市と連携し、2018年11月、小・中学生を対象にスポーツ教室を開催しました。

2回目の開催となった今回は、535名の方に来場いただき、当社からはラグビー部・バスケットボール部・テニス部・柔道部の部員が参加し、子どもたちと共にスポーツを楽しみました。

生物多様性の保全



「人と自然と、つくる未来」をスローガンとして、自然環境の保全や環境教育などに取り組むことで、九州の豊かな自然を未来につなぎます。



環境保全活動

地域の皆さまと一緒に生物多様性や自然景観の保全などに取り組む環境保全活動「こらばらQでんeco」を九州各地で展開しています。2018年度は、九州全域で計30回の活動を行い、約2,500名の方にご参加いただきました。



(各地域の課題解決活動「こらばらQでん」を除く。「こらばらQでん」については54ページ参照)



馬島海岸の清掃活動(福岡県北九州市)



里山での竹さき体験(佐賀県基山町)



九電みらいの森の清掃活動(長崎県島原市)



鹿児島県指定天然記念物「オニバス」の保護活動(鹿児島県薩摩川内市)

環境・エネルギー教育

次世代を中心に、さまざまな「学び」と「体験」の場を提供する環境・エネルギー教育「Qでん★みらいスクール」を展開し、大学生向け講座の新設などプログラムの充実を図ります。



	主な活動名	内容	2018年度実績	活動の様子
講座型	エコ・マザー活動	九州各地のお母さま方が「エコ・マザー」として保育園などを訪問し、環境紙人形劇などを行い、小さなお子さまに環境への配慮の大切さを伝えています。	約 200 回 約 16,000 名	
	出前授業	社員が学校等を直接訪問し、地球温暖化などの環境問題や電気をつくる仕組みなど、環境やエネルギーに関する授業を行っています。	約 560 回 約 20,000 名	
体験型	きゅうでんプレイフォレスト	九州各地の森で体験型環境学習イベント「きゅうでんプレイフォレスト」を開催し、子どもたちに環境を大切にすることを育んでもらっています。	15 回 約 10,400 名	
	親子科学実験イベント	小学生の子どもたちや保護者の方々に、さまざまな実験・体験を通して、地球温暖化などの環境問題や電気・エネルギーに関心を持っていただくイベントを九州各地で行っています。	7 回 約 4,500 名	

九電みらい財団による環境活動

坊ガツル湿原での環境保全活動

くじゅう坊ガツル湿原は、大分県西部に位置し、周囲を九重連山に囲まれた高原性の湿原(約53ha)で、多様な地質・地形を反映した希少な生態系を有することなどから、2005年に国際的に重要な湿地の保全を目的とする「ラムサール条約」に登録されています。

当社は、坊ガツル湿原の保全及びその一帯に生息する希少植物の保護のため、環境省や竹田市、九重の自然を

守る会など地域の方々との協働により、野焼き活動や外来植物駆除活動、隣接する平治岳(当社社有地)のミヤマキリシマ植生保護活動を行っています。

これらの活動は、2016年度から九電みらい財団が主体となって実施しており、現在は野焼き活動の担い手となるリーダーの育成などの充実策にも取り組んでいます。



坊ガツル湿原の野焼き

山下池周辺(大分県由布市)での環境教育活動

九電みらい財団は、山下池周辺(大分県由布市)の当社社有林「くじゅう九電の森」の豊かな自然環境を活用し、グループ会社の九州林産(株)と連携しながら、体験型の環境教育を行っており、2018年度は22回実施し、1,275名にご参加いただきました。

この環境教育では、子どもたちの環境保全意識を啓発し、将来の九州の環境保全につなげることを目的として、地球温暖化の現状と森の役割を学ぶ講話と、「林業体験」「森林観察」「木工教室」などの体験を組み合わせたプログラムを実施しています。

〔くじゅう九電の森〕での環境教育活動



林業体験



森林観察



木工教室

設備形成における環境への配慮

電力設備形成時においては、設備や地域の特性に応じた適切な環境アセスメントの実施等により、環境配慮を図るとともに、周辺環境との調和に努めています。

環境アセスメント(環境影響評価)の実施

発電所などの建設にあたっては、環境影響評価法等に基づき、その周辺環境の保全を図るため、自然環境(大気、水質、生物)等の調査を行い、建設や運用が周辺環境に及ぼす影響を事前に予測・評価し、その結果に基づいて環境保全のための適切な措置を講じています。

●環境アセスメントの実施状況

種別	地点名	発電方式	実施状況
自主アセス*	新喜界発電所7・8号機増設計画(鹿児島県大島郡喜界町)	内燃力	環境アセスメントを実施(2018年3月終了)
	新与論発電所4号機増設計画(鹿児島県大島郡与論町)		
	悪石島発電所2号機更新計画(鹿児島県鹿児島郡十島村)		
	新竹田発電所新設工事計画(大分県竹田市)	水力	調査、予測・評価を実施中



植物調査の様子

※:環境影響評価法及び自治体の環境影響評価条例の対象規模に該当しないが、環境保全を目的として自主的に実施。

●環境保全措置の事例

大岳発電所更新計画に伴う環境アセスメントを実施(2016年7月終了)した結果、ヒゴタイなどの希少な植物が確認されたことから、専門家に相談のうえ、移植を行いました。移植後は定期的にモニタリングを行い、開花・結実していることなどを確認しています。

また、新知名発電所7号機増設計画に伴う自主環境アセスメントを実施した結果、国指定天然記念物であるオカヤドカリが確認されたことから、専門家に相談のうえ、保全措置として敷地内のオカヤドカリを敷地外の適地へ移動させました。



水質調査の様子

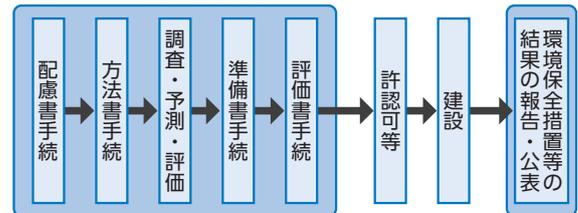
【参考】環境アセスメントの手続きについて

環境影響評価法(一般ルール)及び電気事業法(発電所固有の手続き)に基づき、以下の規模要件に該当する発電所を建設する場合は、環境アセスメントを行うことになります。

対象事業規模要件

	第1種事業 (必ず環境アセスメントを行う)	第2種事業 (環境アセスメントが必要かどうかを個別に判断)
水力	出力3万kW以上	出力2.25万kW以上3万kW未満
火力	出力15万kW以上	出力11.25万kW以上15万kW未満
地熱	出力1万kW以上	出力0.75万kW以上1万kW未満
原子力	すべて	—
風力	出力1万kW以上	出力0.75万kW以上1万kW未満

手続きフロー(第1種事業)



：環境アセスメントに関する法手続き

TOPICS

一ツ瀬川濁水軽減対策の取組み

一ツ瀬発電所は、運転開始後間もない1965年頃から、一ツ瀬ダムにおいて濁水が長期化する現象が見られ、下流の利水、漁業、景観に影響を及ぼすようになりました。このため、当社は1974年に選択取水設備を設置、その後もさまざまな対策を講じてきました。ところが、2004、2005年と相次ぐ大型台風により、2年連続して100日を超える濁水長期化が発生し、特に

2005年は約8か月にも及びました。現在、2008年に宮崎県、流域市町村、学識経験者及び当社で構成される「一ツ瀬川水系濁水対策検討委員会(現:評価検討委員会)」で策定された「一ツ瀬川濁水軽減対策計画書(改訂)」に基づき、濁水長期化の軽減や中下流域の河川環境モニタリング等を行っています。また、流域の皆さまに流域全体の河

川情報をリアルタイムでお伝えできるよう、流域情報監視システムを構築し、多くの方々にご覧いただいています。今後も、濁水軽減対策について、宮崎県をはじめ流域関係者の皆さまと一体となって取り組んでいきます。



一ツ瀬川濁水対策情報

用語集

環境アセスメント(環境影響評価)
環境影響評価法

準備書(環境影響評価準備書)
配慮書(計画段階環境配慮書)

評価書(環境影響評価書)
方法書(環境影響評価方法書)

お年寄りや子どもにもやさしい社会への貢献



次世代育成支援活動

九電みらい財団は、少子高齢化や共働き世帯の増加、地域のつながりの希薄化などにより、子どもたちの育成環境が大きく変化する中、九州の未来を担う子どもたちの健やかな成長を応援するため、NPOなどの諸団体が取り組む次世代育成支援活動への助成事業を実施しています。2018年度は130件の応募があり、選考委員会での

選考を経て、22件の活動に助成しました。

また、それぞれの助成先の素晴らしい活動を広くお知らせすることも助成事業の目的としており、活動を取材し、各団体の活動の様子や活動にかける思いを九電みらい財団のホームページ等で紹介しています。

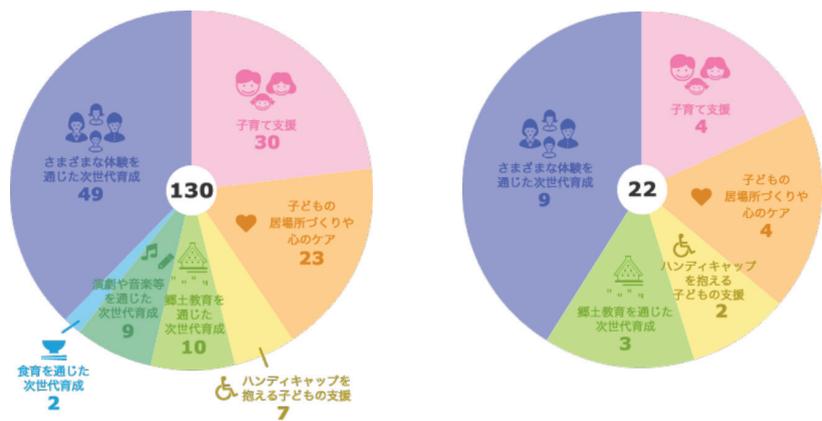
【募集した活動】

- ・子どもたちへの支援活動
体験を通じて、子どもの社会性や協調性、規範意識などを育むこと、及び九州地域を大切にする子どもの育成を目的とした活動
- ・子育て世帯への支援活動
共働き世帯や非正規雇用の増加、地域のつながりの希薄化など、子育て世帯を取り巻く厳しい状況を緩和することを目的とした活動



助成団体応募チラシ

2018年度 活動分野別の応募・助成実績



応募件数

助成件数

【2018年度の助成団体】



団体名：ひむかかたの協会(宮崎)
活動名：ひむかかたの競技大会



団体名：NPO法人 子どもと文化のネットワーク
ぼっぼ・わーど(佐賀)
活動名：転勤族あつまれ～！
親子でほっこりわらべ歌タイム



団体名：いとしま手伝い隊(福岡)
活動名：いとしまこども食堂

宮崎の郷土かるた「ひむかかた」の競技大会開催を通じて、子どもたちの地域愛を育み、次世代の宮崎を担う人材を養成する。

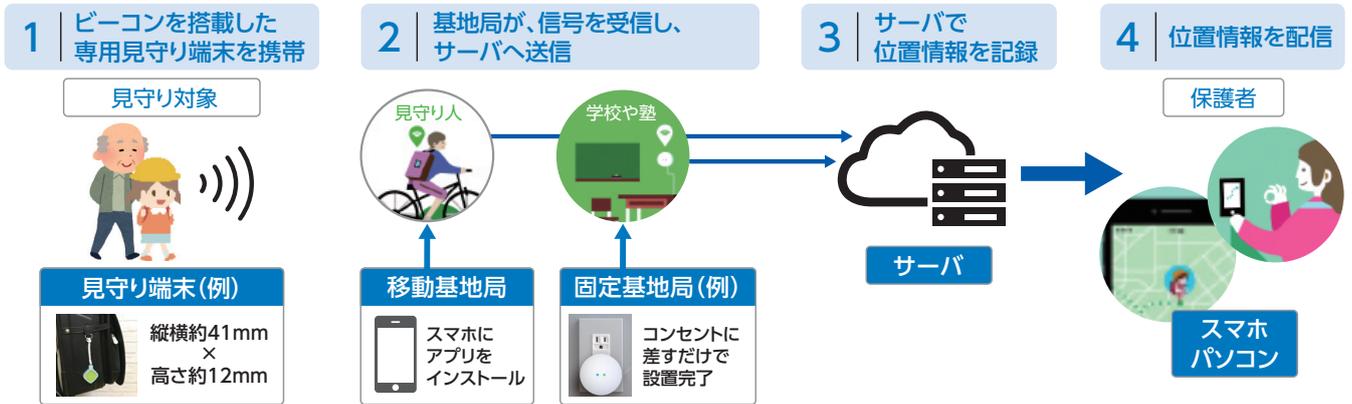
転勤族の母親向けに、わらべ歌を通して子どもとゆっくり過ごす場を提供するとともに、地域での生活・子育て情報を提供する。

子ども食堂を運営し、地域ぐるみで多世代交流や学習支援を実施することで、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりを行う。

IoT技術を活用したお年寄りや子どもの見守りサービスを提供しています

九電グループのイノベーションプロジェクト「KYUDEN i-PROJECT」から生まれた新しい見守りサービス「Qottaby(キューオッタバイ)」を、福岡市内の小学校を中心に提供しています。このサービスは、ビーコン(電

波発信機)を搭載した専用見守り端末を携帯する小学生や高齢者などの位置情報を、保護者の方などがスマートフォンやパソコンで確認することが出来るものです。



離島医療を支援しています

グループ会社の西日本空輸(株)では、自社のヘリコプター事業で培った強みを活かし、大小多くの離島を抱える長崎県で、長崎離島医師搬送システム(NIMAS)事業に参画。移動手段に制約の多い離島医療に従事する医師に対して移動手段を提供することで、離島医療を支援しています。

また、同社は、九州内5県でドクターヘリ事業にも参画。消防機関等からの出動要請に基づき、重篤患者が発生した現場に医師を迅速に送り込み、救命医療を支援しています。



救命医療専用のヘリコプター「ドクターヘリ」

安全で強靱なまちづくり



公衆感電事故防止

公衆感電事故防止PR期間(春・冬:年2回)及び電気使用安全月間(8月)に、土木・建築及びクレーン会社、小中学校・教育委員会、自治体、警察署・消防署等へ公衆感電事故防止についてのPR活動や協力依頼を行っています。

また、電力設備への接触による公衆感電事故を防止するための設備対策を実施し、安全対策を強化しています。

このほか、お客さまへ配布する「でんき知っ得本」やホームページで、電気のお客さまへの安全な使い方をお知らせしています。

●公衆感電事故防止のための設備対策例

- 鉄塔への昇塔防止や発電所や変電所への侵入防止のため、昇塔防止装置や外柵、注意喚起標識を設置
- クレーン車等重機類や釣竿などの送電線への接触防止のため、河川横断部など必要な箇所に注意喚起標識を設置

●公衆感電事故件数

年度	2014	2015	2016	2017	2018
件数	1	3	1	3	1

(注)死亡または入院件数



送電鉄塔の昇塔防止装置の設置



建設業向けの公衆感電事故防止パンフレット



公衆感電事故防止PRポスター



でんき知っ得本



でんき知っ得本 (離島のお客さま向け)

[九州電力 でんき知っ得本 検索](#)

ホームページ

企業・IR情報➡電子パンフレット➡家庭の電気

お客さまの安全確保を最優先した工事施工

鉄塔、電柱、電線などの電力設備は、お客さまの生活環境の近くに設置するため、工事を行う際は、周辺のお

●具体的な安全対策

- 作業箇所への立入を誘導する交通誘導員や標識等の配置
- バリケードの設置
- 落下物を防止するネットの設置

客さまの安全確保を最優先したさまざまな安全対策を実施しています。



配電工事中の落下防止ネット使用

TOPICS

ご家庭の電気設備の安全調査

当社が委託する九州電気保安協会及び各県の電気工事業工業組合の調査員が、お客さま宅を訪問し、電気設備の安全調査を行っています(4年に1回)。

安全調査では、漏電調査や分電盤の

ネジの緩みの点検のほか、感震ブレーカー[※]による電気火災対策をお知らせするなど、電気を安心してご使用いただけるよう努めています。

[※]地震を感知すると自動的に電気を止めるブレーカー



分電盤の点検

無電柱化の推進により、災害に強い街づくりに貢献します

2018年12月、近年の災害の激甚化を受けて「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」が閣議決定され、緊急輸送道路約1,000kmにおいて無電柱化を進める方針が提示されました。

当社は、九州における整備目標107kmの達成に向け、取組みを進めています。



[無電柱化前]



[無電柱化後]

完全自己処理型水洗トイレで、被災地の復旧支援に貢献しています

グループ会社のニシム電子工業(株)は、完全自己処理型水洗トイレ「トワイレ」を提供しています。

水道や電気などのライフラインを必要とせず、汲み取りも不要という特性を活かし、「平成29年九州北部豪雨」や「平成30年7月豪雨(西日本豪雨)」の際には、被災地の復旧支援として貸し出しを行い、多くの方にご利用いただきました。



TOPICS

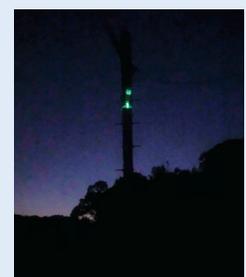
防災機能を備えたLED街路灯「道しるべ灯」を寄贈しました

2019年2月、当社日向配電事業所は、宮崎県日向市と同県門川町に、昼間に光エネルギーを蓄えて夜間に発光する蓄光塗料を塗布したLED街路灯「道しるべ灯」を寄贈しました。

これは、同事業所とグループ会社の誠新産業(株)が共同開発したもので、停電などで周囲が暗闇に包まれた状態でも、およそ10時間ほかに光を放つことができ、災害発生時の避難経路や避難場所の目印としての活用が期待されます。



贈呈式



夜間発光の様子